

NJ 素流協 News

平成29年10月10日
第153号

平成29年10月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

ノースジャパン素材流通協同組合 林業講演会 「国内広葉樹資源の需給実態」を開催

当組合は9月8日、岩手県滝沢市

1 はじめに

において「国内広葉樹資源の需給実態」をテーマに林業講演会を開催し、組合員のほか、森林管理局・管理署、地方自治体林務関係課、木材加工工場関係者等、約110名が参加した。

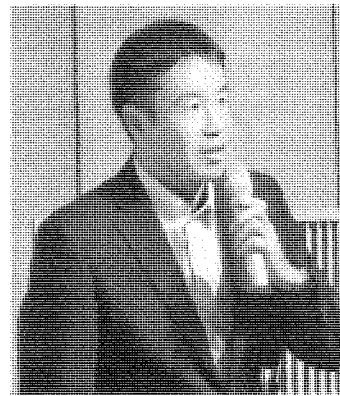
今回は講師に(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所 木材利用動向分析担当チーム長の青井秀樹氏と林野庁業務課企画官(10月1日から津軽森林管理署長)の唐澤智氏をお招きし、我が国の林業・林産業における広葉樹の資源状況や流通の実態についてご講演いただいた。2回講演1「マテリアル用国内広葉樹の需給実態について」

講師 (国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所

林業経営・政策研究領域

木材利用動向分析担当チーム長

青井 秀樹 氏



講演する青井秀樹氏

今日ご紹介する研究をなせ行うに至ったかにもまず触れておきたい。

国産材需給は今後どうあるべきかを考えるとき、海外情勢の変化との関係は切っても切れない。近年情勢が急激に変化しているが、広葉樹業界は分業化が極端に進んでおり、その全体像をつかむのは難しい。林野庁施策として提案を行うにあたり、全体像を把握するためにこの調査を立ち上げたという経緯がある。

日本列島は南北に長いため、「この地域の山の主な広葉樹は何か」と尋ねると、地域ごとに答えが変わって

くる。これは針葉樹と非常に対照的で、広葉樹は多様であり、均一の答えというものが無い。

2 広葉樹の用途と、広葉樹を取り巻く環境の変化

今日のテーマ「マテリアル用」木材とは、建築用材、家具用材、内装用、生活用品など、木材の繊維までほぐしたり燃やしたりせずに、材をそのまま活用するものを指す。(図1)

- 紙パルプ (基本的に樹種不問(除:クス、キハダ))(小径、曲がり、節の多い原木)
- バイオマス発電用の燃料 (樹種不問)(小径、曲がり、節の多い原木)
- カツオ、サバ等のいぶし用の燃料 (カン類)
- きのご用のほだ木、おが粉 (コナラ、クヌギ、ブナ、シイ、シラカンバ等)
- 医薬品の原材料 (クロモジ(養命酒)、キハダ(正露丸)等)
- ハム等の燻製用チップ (サクラ、コナラ、クヌギ、ブナ、カシ類、カエデ類等)
- 木造建築物の構造材 (ケヤキ、クリ等) 以下が「マテリアル用途」
- 家具、内装材 (ミズナラ、コナラ、ブナ、クルミ類、ニレ、ウダイカンバ、イタヤカエデ、タモ、セン、クリ、サクラ等)
- 楽器 (ミズナラ、ブナ、イタヤカエデ等)
- 伝統工芸品の木地 (トチ、ケヤキ、クリ、サクラ、ミズメ等)
- 枕木 (クリ、ニレ、セン等、(注:東南アジア産アビトン、ケンパス等))
- 野球のバット (アオダモ、(注:アメリカ産シュガーメイプル、中国産アオダモ))
- トラックの荷台用フローリング (注:東南アジア産アビトン、ケンパス等)
- 醸造酒用の樽 (ミズナラ、(注:アメリカ産ホワイトオーク))
- 将棋盤、囲碁盤 (カツラ、(注:イチョウ、カヤ(針葉樹)))

図1 広葉樹材の用途 (青井秀樹氏講演資料より抜粋)

国内の家具用材の需要は約72万㎡、うち海外産の材料を使っているもの

がおよそ8割と言われている。円ドル換算レートは、2012年後半の政権交代時から急激に円安に変化した。その為替変動幅が木材の輸入単価に上乘せされ、なおかつ海外現地価格の高騰もあって、木材の輸入価格が高くなっている。また政治的事情では、ロシア材の輸出関税引き上げや、ワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）への樹種登録、さら

3 国内の広葉樹蓄積概況

広葉樹の素材生産は私有林が主体で、国有林では計画上広葉樹の伐採はなく、道路支障木や針葉樹の中に混じっている広葉樹を伐っている。国有林の広葉樹の蓄積が多いのは、

順に北海道、青森県、岩手県で、一方私有林では北海道、岩手県に次いで、新潟県、岐阜県、島根県と続く。今回の調査では、統計上の蓄積に対して、実際に伐って利用することが可能な状況で蓄積されているか、その実態について聞き取りを行った。それによると、いずれの地域でも「雑山」の形で存在することが多く、多樹種・少量・点在型となっている。

4 広葉樹の流通状況

広葉樹の流通量は生産量と同じであると仮定すると、北海道は約59万³m³である。北海道では良質な広葉樹材が出ると、旭川の原木市場へ持ち込まれる。この市場の取扱量は年間

約2万³m³で、聞き取り調査では市場外の取引量も同程度あることが推測できるので、59万³m³のうち約4万³m³、約8%が用材だと考えられる。市場の入札に参加するのは、主に家具メーカーや内装材メーカーに製材品を卸

す業者である。

なお広葉樹の流通において別立てで考えなければならぬのが高額取引が確実視される銘木で、これらは旭川や岐阜の銘木市場に集まり、そこには違う種類の買い手が集まる。

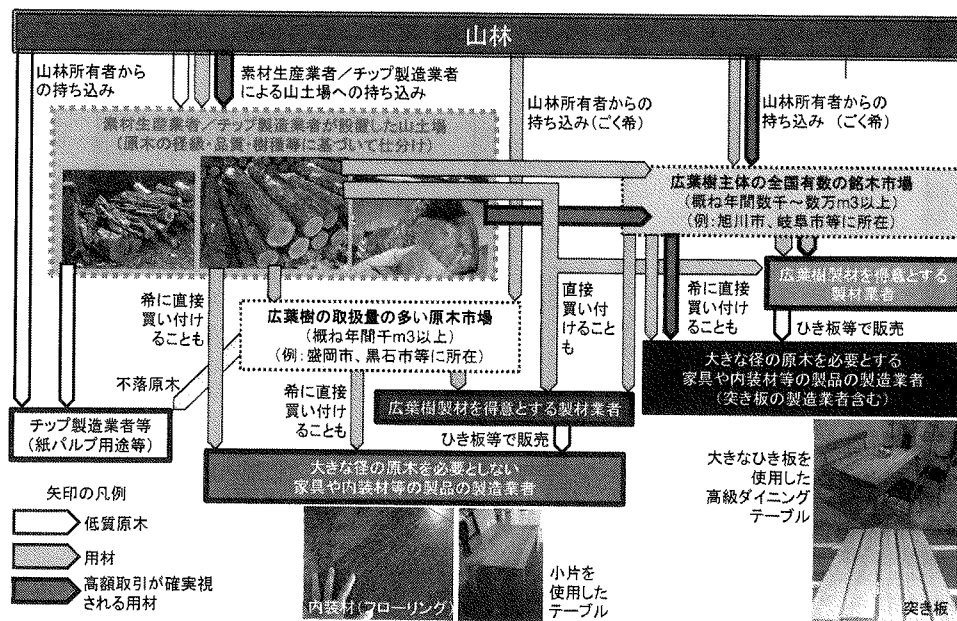


図2 広葉樹材の流通模式図（青井秀樹氏講演資料より抜粋）

図2は広葉樹の

流通を模式化したものである。山土場では、低質原木、用材、高額取引が確実視される用材が仕分けられて、低質材はチップ業者に、用材は近くの市場に、銘木級の原木はトレーラーで遠方まで運ぶ。旭川の市場には、買い手が青森、岩手、福島、群馬、静岡、岐阜などから来ており、原木が全国に流通している。岩手県では盛岡の木材流通センターに集まり、青森、岐阜、静岡などの業者が買っ

ている。岐阜県の市場の原木は、山梨、石川、兵庫、香川に運ばれる。これらを挽いた製材品もまた全国に流通している。

5 広葉樹用材のサイズと単価

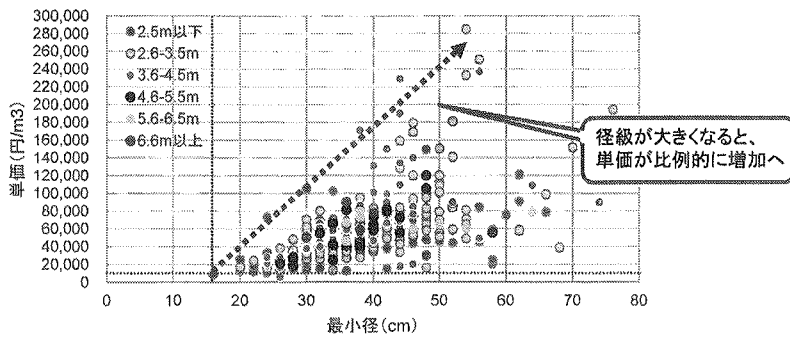


図3 ミズナラの長級別による単価—径級の分布傾向 (青井秀樹氏講演資料より抜粋)

国有林素材委託販売の3年分の樹種ごとの落札結果のデータから、落札材の径級、長級、一番札の金額を分析したところ、同じ長級の原木では、末口径が上がると単価が上がる

傾向があることが分かった。(図3)

色々な色の丸はそれぞれ長級を示す。北海道森林管理局のミズナラの例では、同じ長級の原木で、径級が大きくなると価格が比例的に高くなる様子が分かる。なお原木市場では末口径20cm以上の材を持って欲しいと言っているが、データを見ると、コナラでは14cmなど細かい材でも買い手はついている。径級が大きくなると単価が上がる傾向はあるが、細いからといって売れないわけではないことが分かる。

次に長さとの単価の関係であるが、データ全体の5%は競り上がりによって特に高い単価が出たものとして除外し、それ以外のデータについて、3m以上の材と2m材でそれぞれ単価の増加直線を引き、末口径50cmのところでは単価を比較すると、例えばイタヤカエデは2m材は約9万円、3m以上の材は約15万円、1.7倍の差があった。樹種によりかなりバラつきはあるが、2m材に対して3m以上の材は、およそ1.1~3.5倍程度単価が増加することが分かった。

6 需要者の求めるものとは

市場に持ち込まれる材の長級は、北海道は3mが多く、東北は2m材が多い。1.8m材はフローリング材では3×6(サブロク)版の化粧をするのに使われる一方、製品の寸法には3×8(サンパチ)版もあるので、2.4mの造材も考えられる。

野球のバットや茶道具の材料になる樹種では、1mで良いというものもある。長さに関しては実需者の事情をもっと掘り下げて知る必要があると思う。またかつての不人気樹種の扱いが変わってきたことも分かった。シラカンバは昔はパルプ扱いだったが、中部森林管理局の委託販売で2mの長さで径50cmのものが3.2万円など良い単価がついていて、以前とは明らかに評価が変わってきている。

7 広葉樹需要の現状と今後

需要量については、家具用が原木換算で72万m³、フローリング用が数万m³で、今後の見通しについては現状維持で、極端に需要が増えていくことはなさそうである。最近の動向

としては、旭川の家具メーカーが2013年から道産の材を使い始めたり、翌々年道産広葉樹を用いた家具の展示を始めていたりしている。今年6月には国産材家具サミットを開催し、各地のメーカーがパネリストとして参加して国産広葉樹を使いたいという話をした。

家具以外にも、従来輸入材が使われていた部材が入手しにくくなったため、国産材で代替しようという動きがある。例として、センダン広葉樹の早生樹で、すでに九州では原木市場に出ており、今後植えて育てていこうという話も出ている。

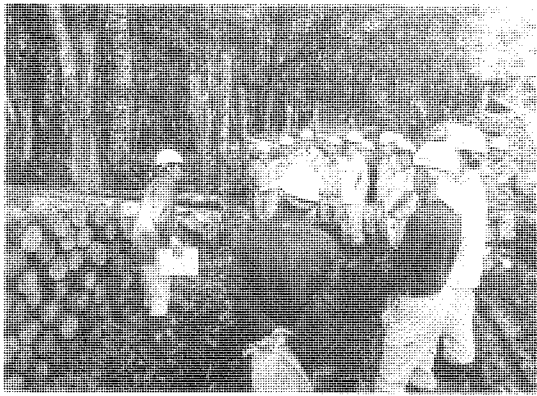
8 広葉樹の供給促進のために

広葉樹の供給を増やすため、山林所有者、行政機関、素材生産業者を含めて国産広葉樹のPRをもっと進めていく必要がある。全国的に見たときに、良材から低質材まで余すところなく使っている地域は、今や北海道と東北ぐらいである。用材を欲しがっている所はたくさんある。今後の取り組み次第で、良い方向に行くと考えている。(第一部おわり)

トピックス

いわて林業アカデミーの講師を担当しました！

9月13、14日の両日、当組合がいわて林業アカデミーの講師を担当した。1日目は鈴木理事長、高橋常務理事による木材の流通についての室内講義と、(株)イワリン社有林において低コスト再造林実証事例の現地研修を実施した。



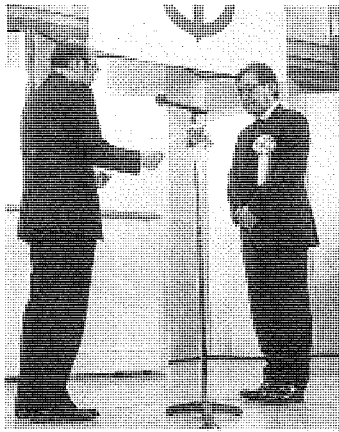
山土場で丸太の規格について学ぶ研修生達

2日目は、(株)昭林が作業する姫神岳国有林山元土場等において丸太の規格・欠点等の講義と25トン

トラックへの原木積み込み作業の見学を行い、続いて(株)古里木材物流本社において、原木輸送用トラックの種類や用途等の説明を行った。

中小企業団体岩手県大会で当組合が知事表彰

岩手県中小企業団体中央会の第42回中小企業団体岩手県大会が9月20日、盛岡市内で開催された。県商工観光業表彰では当組合が団体の部知事表彰を受け、県商工労働観光部菊池部長より鈴木理事長に表彰状が授与された。



林業関連ではこのほかに、けせんプレカット事業協同組合(岩手県住田町)の温秀輝さん、同佐々木瑞穂氏、同紺野久之氏が、大会表彰・組合功労者(職員の部)を

受けた。

NJ素流協 第2回理事会を開催

9月8日、当組合本年度第2回理事会を岩手県滝沢市において開催し、理事、監事合わせて12名が出席した。組合員の加入及び脱退の件、賛助会員の加入の件、岩手県森林再生機構との協定締結の件等議事についてそれぞれ審議し、全て原案通り可決された。

来春のしいたけ原木 不足に対して協力要請

9月20日、岩手県庁において平成29年度第1回しいたけ原木供給連絡会議が開催され、当組合竹田参与が出席した。県の第1回調査(8月末)によると、30年春植菌用原木が約7万4千本不足していることが判明。秋田県にも原木供給を要請する予定だが、県内供給を確保するため、原木供給の拡大のほか、原木生産が可能なナラ林の情報提供などについて協力の要請があった。

伐採搬出ガイドライン九州大会で NJ素流協の取り組みを発表

NPO法人ひむか維森の会(宮崎県宮崎市、松岡明彦代表理事)が主催する「伐採搬出ガイドライン・サミット in 九州・宮崎」が9月23日、宮崎市内で開催され、行政素材生産、加工流通等の関係者約240名が参加した。当組合経営企画部の吉田課長が出席し、東北地方の事例としてノースジャパン素流協の沿革と事業、現在の取り組みについて発表した。全国からの報告としてほかに、島根県素材流通協同



NJ素流協の取組みについて発表



（尙）山一木材、山田一宝代表取締役のご長男龍太郎さんがこの度ご結婚され、9月吉日、岩手県一関市内において披露宴を催されました。新婦の絵理さんは京都府立林業大学校で龍太郎さんと共に学ばれた同級生。岩手県林業界にとって、若きカップルを迎えることはまことに喜ばしいことです。お二

**ご結婚おめでとう
ございます！**

組合、鹿児島県素材生産事業連絡協議会が発表を行った。

国有林素材山元委託販売 入札結果

市日： 平成29年9月20日(水)
市場： 岩手北部森林管理署

(参加者人数9名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m ³)	応札枚数	土場
102-1	スギ	4.00	16-34	込	49	10.072	4	根花
102-2	スギ	2.00	16-36	込	710	80.687	5	根花
102-3	スギ	2.00	16-42	込	107	12.517	4	根花
102-4	カラマツ	4.00	16-30	3等・込	283	51.304	4	根花
102-5	カラマツ	2.00	16-36	込	1,200	128.996	4	根花
102-6	カラマツ	2.00	16-34	込	224	23.291	4	根花
102-7	カラマツ	2.00	16-36	込	176	19.767	4	根花
102-8	スギNA	2.00		原料材	層積	86.940	5	根花
102-9	スギNA	2.00		原料材	層積	149.764	5	根花
102-10	スギNA	2.00		原料材	層積	174.636	5	根花
102-11	カラマツNA	2.00		原料材	層積	91.728	3	根花
102-12	カラマツ	4.00	16-34	3等・込	185	34.504	4	大沢
102-13	スギNA	2.00		原料材	層積	127.411	5	大沢
102-14	カラマツNA	2.00		原料材	層積	113.098	3	大沢
102-15	カラマツNA	2.00		原料材	層積	77.414	3	大沢
合計					2,934	1,182.129		

市日： 平成29年9月25日(月)
市場： 岩手南部森林管理署

(参加者人数6名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m ³)	応札枚数	土場
602-1	スギ	4.00	40-60	元玉・中玉A	25	19.208	2	畑入山
602-2	カラマツ	4.00	16-38	3等・込	275	66.644	4	畑入山
602-3	カラマツ	2.00	16-40	込	326	41.456	4	畑入山
602-4	カラマツ	2.00	16-38	込	150	19.968	4	畑入山
602-5	カラマツ	2.00	16-38	込	195	25.565	4	畑入山
合計					971	172.841		

おすすめの本

**平成28年度林野庁委託事業
多様な木材需要に対応するための需給動向調査報告書
(概要版)**

林業講演会で広葉樹の需給実態についてお話しいただいた森林総研の青井秀樹氏は本調査の検討委員。また林野庁唐澤智氏が本事業のご担当で、講演第二部では本報告書を資料として引用されています。概要版は農林水産省ホームページの下記のリンクからダウンロードできます。「予算、決算、財務書類等」>「予算執行等に係る情報の公表等」>「委託調査費、タクシー代に関する情報」>「平成28年度成果物一覧」>「一般会計」番号207



当組合では、カラマツ種子不足対策に協力するため、平成27年度から種子確保に取り組んでいる。

**カラマツの
種子採取を実施**

人の末長いお幸せとご活躍を心からお祈り申し上げます。

今年もホームページや組合員会議等を通じて着果量の多いカラマツ樹について情報提供をお願いしてきたところ、2組合員から情報が寄せられ、9月20日と29日、岩手県田野畑村と同岩手町において組合職員が球果採取を行った。県の種苗担当職員によると、今年の

県のカラマツ採種園の着果状況は不良とのこと、貴重な収穫となった。この両日に採取した球果は、岩手県山林種苗協同組合へ提供した。情報提供と着果カラマツ樹の伐倒についてご協力いただいた横澤林業(株)横澤孝一代表取締役、(株)ふるさと木材畠山辰也代表取締役に深く感謝申し上げます。

ふるさと木材畠山辰也代表取締役に深く感謝申し上げます。

ちよつと気になる木の話

15

木箱・折箱のお話

全国段ボール工業組合連合会のホームページに、段ボール産業の歩みの文章が載っている。「1951年〜1960年木箱から段ボールへの転換」の見出しが出ている。「段ボール産業が急速な発展を見せた最大要因として、木材資源保護に対する官民あがりの取組みがありました。1951年以降、歴代内閣は『木箱から段ボールへの切替え運動』を大々的に進め、それが産業界に浸透していきまし」と記載されている。公共建築物木造禁止の流れと時をひとした内容である。しかしながら現在は、地球環境保護、木材資源の充実から、政策は転換し、公共建築物等木材利用法が制定され、官民あげた取り組みが進んでいる。建築物とは全く意味は違うが、木箱、折箱についての現状を考えてみたい。

輸出用のパレット、ダンネージ等は未だに木製が主体で、ラジアータ

パインからスギ、カラマツへの転換が進んでいる。しかしながら次のようなニュースがあった。今までこだわってきた津軽のリング箱が、製材工場の減少で箱材を挽いてくれるところが無くなり、材料転換を余儀なくされるといのである。そういえば当組合でも、岩手県内でリング箱の注文に応えるため、アカマツ丸太調達の依頼を最近受けたところである。

北海道ではタマネギの保管箱が十字模様のスチールコンテナであるが、タマネギのスチールに当たる部分が傷んで商品にならないので、スチールの角に木材を貼れないかと相談を受けたこともある。これは、ビルの地下駐車場のコンクリートの柱に木材を巻いて、接触破損を防いでいるのと同じニーズである。農産物には、まだ木箱の使い道があるかも知れない。

さて、問題の折箱の話に移る。折箱は厚経木を仕組んで作られている。

北海道には、北海道経木組合、北海道厚経木組合が現存している。経木

は、昔から肉屋さんや菓子屋さんの

包みとして薄い木が使われていたの

を記憶している人も多いと思う。あ

れである。この折箱の業界団体とし

て、全折食品容器連合会がある。こ

の団体のホームページの会長挨拶に、

「現在では、食品容器の原材料も、

木材をはじめ紙、化成品に進化して：

本会の会員の業態も木製製品をはじめ

め、多角化しています。と、あ

くまで木材中心であることが見える。

折箱には、杉、桧、エゾ松、赤松等

様々な木が使われているが、未だに

木へのこだわりが見て取れる。折箱

なので、寿司折、菓子折等、品物に

応じて「折」がついている。

そういえば近年、某プラスチック

容器大手から、空弁（空港で売られ

ている弁当）の箱を木箱にしたいと

相談に来られたことがある。空弁な

ら単価は高いし、木箱は軽く、処分

は燃えるごみで、高級感も出るとい

うのである。木の折箱は適度に湿気

を吸収して、香りも楽しめるのが利

点であり、カマボコ板と同じかなと思ふ。是非実現して欲しいものである。

さらに今月、かつて天然秋田杉を挽いていた工場の人に話を聞いたら、高齢級のスギの背板は、そのまま木箱製造業者に販売したり、自ら木箱用に製材して販売すると教えられた。それがデパートの有名なメーカーの贈り物の箱になるといふ。ちなみに丸太に節があっても、箱材料ではカットするので、他の役物製材や桶、樽より丸太の許容範囲は広いといえるが、目や色は重要である。

このように、まだまだ木箱、折箱の需要はあるが、木材・林業界との関係は強くないと言えらる。もう一度つなかりを戻す必要がある。この業界も木材資源保護の戦後の国の方針に影響を受けたもので、時代の逆回転の今こそ応援すべきと考える。

前述した全折食品容器連合会のホームページ写真には、「美しい森づくり、1966年北海道留辺岬町に植林」とある。石油化学コンビナートの写真ではない――。

森林・林業 おでかけ！レポート (岩手県二戸郡一戸町)

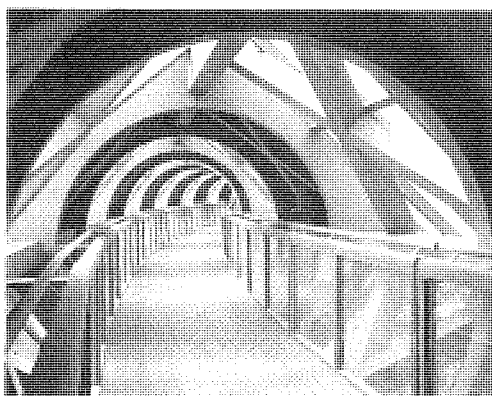
御所野縄文公園・博物館

所在：岩手県二戸郡一戸町岩館字

御所野2

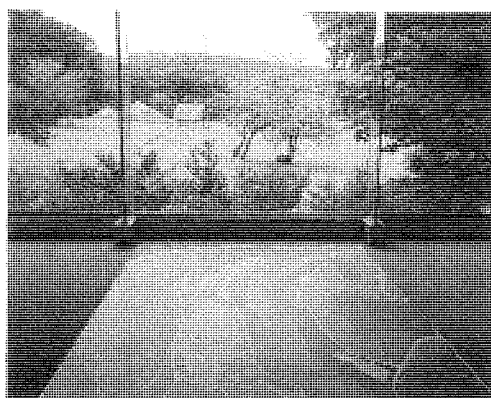
N J素流協が原木を納めている岩手県一戸町の木質バイオマス発電所は、名称を「御所野縄文発電所」という。ユニークなネーミングが興味をそそるが、由来をたずねて現地を訪れると、国道沿いにカラフルなモニュメントが。これが公園の目印だ。

発電所の脇のゆるくカーブした車道が上がっていくと、不思議な形のゲートにたどり着く。御所野縄文公



タイムトンネル「きききのつりはし」

園および博物館は、このゲートをくぐり、トンネルのような吊り橋を渡った先にある。



「展望室」から復元された縄文のムラを眺める

平成元年（1989年）、一戸町農

工団地の造成計画に伴う発掘調査で、縄文時代の配石遺構群と古代の末期古墳が発見された。続く調査では、

この台地全体に住居跡など多数の遺構が存在することが分かり、遺跡として保存することを決定。平成5年、国の史跡に指定された。住居群を復元するとともに、公園の整備と埋蔵文化財センター（博物館）の建設が行われ、平成14年御所野縄文公園と

してオープンした。平成26年には博物館をリニューアルし、現在は遺跡や土器・石器などの出土品を見るだけでなく、縄文の暮らしをプロジェクトクションマッピング映像で楽しめるほか、土器作り体験などもできる。

この博物館には貴重な資料がある。一戸町で出土した縄文時代の漆器の破片が収蔵されているのだ。この日は他所に貸出し中とのことで現物を見ることはできなかったが、籃胎漆器（らんたいしつき）と言って竹などで編んだ籠などを漆で塗り固めた容器や、赤漆を塗った土器の破片などがあるらしい。漆工芸のルーツが縄文時代まで遡れるとすると、縄文文化は、我々の想像を越えて色彩豊かだったのではないだろうか。

公園のマップに「漆林」の文字がある。公園として整備される以前から存在していたという。樹高15mはあるだろうか、整然と植えられたウルシの林で、漆を掻かれた跡の残る木や、役割を終えて伐られたらしき切り株もある。かぶれるのが怖いのでおっかなびつくり近づいて写真を

撮った。紛れもないウルシの葉と花だ。どれほどの期間、ここで漆掻きが行われていたのだろう。もしかしたら時を超え、縄文の時代から…



ウルシの林というものを初めて見た！

御所野縄文公園・博物館

I GRいわて銀河鉄道一戸駅と東北自動車道一戸インターから、いずれも車で5分ほど。

博物館展示室観覧料：一般300円、
高校・大学生200円、小中学生150円
(公園への入場は無料)

開館時間：公園、博物館とも9:00~17:00
(入場は16:30まで)

休館日：毎週月曜（祝日に当たるときは翌日）、
祝日の翌日（土日を除く）、年末年始。

平成 29 年 9 月 分 の 販 売 実 績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	10,486	131.8	109.4	11,069	88.4	151.5	21,556	105.2	127.6
カラマツ	2,974	116.2	141.5	841	94.8	123.1	3,814	110.7	137.0
アカマツ	2,714	110.5	120.5	302	266.3	266.5	3,016	117.4	127.5
その他	0	*	*	268	*	136.5	268	*	136.5
合計	16,175	124.7	116.0	12,480	92.3	150.4	28,654	108.1	128.8

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,418	99.5	88.0
カラマツ	2,183	125.6	207.9
アカマツ	1,599	109.3	373.4
その他	136	*	*
合計	9,337	108.0	122.3

樹種	今年度累計			
	合板用 (m³)	その他 製材用等 (m³)	計 (m³)	バイオマス (t)
スギ	58,196	67,626	125,822	35,240
カラマツ	18,328	4,176	22,504	10,288
アカマツ	15,547	974	16,522	11,485
その他	0	428	428	136
合計	92,071	73,204	165,275	57,148
目標達成率 (%)	49.8	63.7	55.1	57.1
計画量	185,000	115,000	300,000	100,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成 29 年 9 月 の 需 給 動 向】

- 虫害の時期が落ち着き、今後は製材用原木の出材が増える見込み。
- 集成材用、合板用原木の動きも順調、多少工場により不足感があるものの需給バランスは良好。
- 10月からはアカマツの伐採が本格化(増量)。またアカマツ使用工場の引き合いも強くなっている。

耳からウロコ

林業になじみの深い歌と

小説うんちく

当組合の組合員の仕事である林業になじみの深い歌と言えば、北島三郎の「与作」である。「与作は木を伐る トントントン…」が有名なフレーズであり、いわば伐採の歌である。作詞者は長沢公典とあるが、有名な作詞家ではない。何故なら、この歌はNHKの「あなたのメロディー」という視聴者参加番組から生まれたからである。この番組からは、トワエモアの「空よ」や青江三奈の「盛岡ブルース」も誕生している。ちなみに与作は本来荘園の田地耕作を行う「預作」から来ており、豊作を願う農民が多く命名したとされ、農家の代表名とも言える。

次に同じ北島三郎の「年輪」である。「苦労年輪樹は育つ」のフレーズが耳に残るが、いわば育林の歌である。そこで作詞者はいえ、セキネケンイチとある。うくん、誰だろう。実はこの歌も「山のうた」募集の入選作である。「山のうた」とは何

か？林野庁が毎年代々木公園(現在は日比谷公園)で実施している「森林の市」で募集したもので、北島三郎も代々木公園に現れている写真が残っている。偶然にも2曲とも公募作品である。育林や伐採の詞は、有名作詞家は作らないよね…と改めて認識する。でも、国民は作るのである。

小説にも、林業に関係するものがある。我々の時代では、島田陽子のデビューで有名な「氷点」は、旭川の外国樹種見本園が舞台である。三浦綾子が作者であるが、夫君が旭川営林局職員で、営林局が所有していた見本園のそばに住居があったことが理由である。ちなみに、この小説も朝日新聞社の公募である。

次に、水上勉の「飢餓海峡」がある。洞爺丸台風の中の強盗事件から始まるが、青森の大湊へ森林鉄道を使って逃げる姿が描かれている。当時は下北半島中に森林鉄道網が張り巡らされていた。映画では犯人のあまりの派手さに「営林署の人？」と聞くシーンが私には印象的である。この洞爺丸台風が北海道で大風倒を起こし、後に北洋材(ロシア材)時代の先駆けとなったのは有名である。